

1. 建物概要

建物名称	県営住宅原田地蔵管整備事業 2工区	BEE	2.6	BEEランク	A	★★★★
------	-------------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9	/5	ふつつ 
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.3	/5	ふつつ 
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.2	/5	よい 
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.9	/5	ふつつ 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.9
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①LOW-E複層ガラス採用による開口部の温熱環境の向上。 ③カーテンと庇を組み合わせてグレアを制御。 ④性能評価劣化等級3取得予定。 ④高寿命な給排水管を採用	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤自生種の保全に配慮、植栽条件に応じた緑地計画としている。 ⑥空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦適切な断熱材とLOW-E複層ガラスによる高断熱化。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。	LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水器具を採用。 ⑫スラブ下断熱材にリサイクル材を採用等。 ⑬木下地等、分別が容易な下地材を使用。 ⑬有害物質を含まない材料(防水プライマー等)を採用。 ⑬ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用。	LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率を抑制している。 ⑮陳棟間隔を0.5以上とした。	LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	3.3
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰CATVにより災害情報を入手可能。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	4.2
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高を2.8m以上2.9m未満とした	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ	
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑歩道状空地や入居者以外も自由に使用できるベンチ等を設け、都市空間のアメニティ向上に貢献。	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	3.9
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉒自生種の保全に配慮、植栽条件に応じた緑地計画としている。 ㉓緑地により、良好な景観の形成に配慮。	Q-3 1 ㉒ 生物環境の保全と創出 2 ㉓ まちなみ・景観への配慮 3 3.2 ㉔ 敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖外構の舗装面に保水性ブロックを採用した。陳棟間隔を0.5以上とした。	LR-2 2 2.5 ㉕ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ㉖ 温熱環境悪化の改善	